

中下流部課題30. (環境)

現 状

河川利用者が、貴重種などの生息・生育環境に踏み入ることによる動植物への悪影響の解消・緩和には、河川利用者の自然環境への理解・保全意識の向上が必要である。

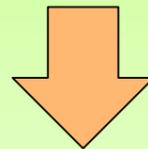
また、ゴミの放置・散乱による景観の悪化が見られることから、河川利用者・地元住民等の景観への理解・保全意識の向上が必要である。

説明項目

- ①高水敷への自動車等の乗り入れ状況
- ②ゴミの不法投棄、流木・漂着ゴミ対策
- ③流木・漂着ゴミ対策

部会員からの意見

(鈴木鉄)河川敷への四駆の乗り入れで自然が破壊されるのが目立つ。国交省と市町村、自治会が協議して規制・監視をすれば自然の破壊が減ると思われる。



天竜川中下流部の課題

- ・下流部らしい自然環境・景観
- ・自然環境・景観保全のための連携
- ・自然環境・景観保全のための連携

中下流部課題30. (環境)

- ① 高水敷への四駆自動車等の乗り入れ状況
車などによる河川内部への侵入がみられ、河原に生息する生物への影響が懸念される



四輪駆動車の中州進入状況



中州に産卵されるコアジサシの卵

- ② ゴミの不法投棄、流木・漂着ゴミ対策



ゴミの不法投棄

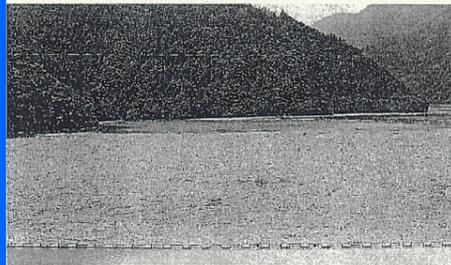


ゴミ散乱状況

③ 流木・漂着ゴミ対策

大量の流木 湖面を覆う

台風と長雨で上流域から
幅300m 厚さ30—50cm



ダム湖にたまった流木やごみは、島のよう
—佐久間町の佐久間ダム湖

台風10号とその後のもたらした降雨の影響で、八月中旬に十五日間の放流を行った佐久間町の佐久間ダム湖に大量の流木などが流入している。ダムを管理する電源開発佐久間電力所は「八月にこれほどの流木がたまるのは珍しい」と話している。

佐久間ダム湖

同電力所によると、例年の放流回数の平均は五回、約三十日間。今年は平均を越えているという。

四月中旬に平成十年以来という放流を行うなど水量が安定し、八月末までに五回の放流を行った。ゲートの開放回数も例年を越えているという。

水量の安定とは裏腹に、同ダム湖には多くの流木などが流れ込んでいて、担当者も「水量が少なかつた二、三年分の上流域のごみがまとめて流れ込んだようだ」と語る。この量は二万三立方メートルとみられる。

現在同ダム湖には、ごみを止めためるためのフット式網と呼ばれるネットが張られている。網の幅は約三百メートル、網の厚さは約三センチメートル、三十五センチの厚さがある。網は、流木やごみがたまっていくたびに、同電力所は月に百メートルほどの引き網を行い、フル稼働で流木などの除去を行っている。



静岡新聞 H15.9.2 朝刊

現 状

天竜川の水質は、最上流部の諏訪湖の水質は悪く、中流部に向けて改善され、下流部では市街地を流れる支川の合流により若干水質が悪くなっているが、環境・景観に特に支障は生じていない。

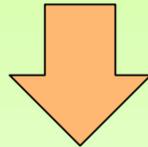
なお浮遊物質量(SS)は、本川では上流部山岳地帯からの土砂流出のため、中流部支川に比べ高い値を示し、洪水時にダムに貯留されることによるダム下流における濁りの長期化や、ダム堆積土砂の浚渫に伴う濁りの発生もあることから、魚介類・底生動物・付着藻類等河川生物への影響が懸念される。

説明項目

- ①水質の現状1
- ②上流から流下する浮遊物質量の多い水

部会員からの意見

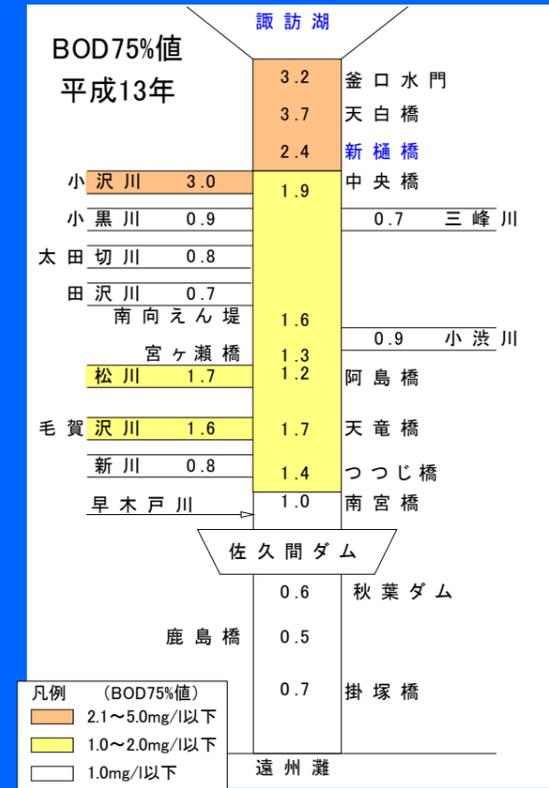
- (岩堀) (治水、利水を除くと) 親水を考える上では、水質が重要。天竜川の水質の対象は、ダム湖の水質と平野部の河川の水質に分ける必要がある。
- (板井) ダムの放流水の水質とくにSSは、その汚濁の長期化により河川生物への影響が懸念されるが、アユなどの魚類のみに焦点を絞ることなく、底生動物、付着藻類など河川生態系の基礎的な生物をも含め十分に考える必要がある。
- (岩野) ダムの浚渫・湖内移送にともない発生する濁水により、河川水の濁りが長期化しており、魚類の生息環境や漁場を侵している可能性がある。



天竜川中下流部の課題

- ・自然環境に関わる水質の保全
- ・水質の保全(自然環境)
- ・水質の保全(自然環境)

① 水質の現状1



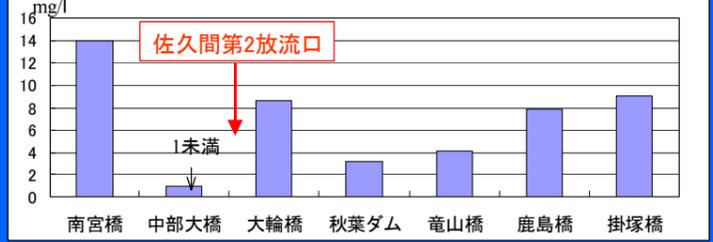
- 天竜川の水質は下流ほど良好
- アオコが諏訪湖で発生し天竜川を流下
- BOD環境基準値
 - ・ 3.0mg/l(釜口水門～三峰川合流点)
 - ・ 2.0mg/l(三峰川合流点～早木戸川合流点)

※水質基準設定区分 : 環境基準は河川についてはBOD等で、湖沼および海域についてはCOD等で設定

※BOD(生物化学的酸素要求量) : 水中の汚濁物(有機物)が水中の微生物によって分解されるときに必要な酸素の量

② 上流から流下する浮遊物質量の多い水

○佐久間第2発電所放水口の上流(中部大橋地点)と下流(大輪橋)の浮遊物質量(SS)を比較すると、若干上昇が認められるが、通常は10mg/l未満の比較的低い値を示す



平常時には、上流部からの流入水と、中流部支川の濁りの差が目立つ。
佐久間第二発電所 放水口



中下流部課題32. (環境)

現 状

水質の保全のため、生活排水に対して、流域市町村により下水道の整備や合併処理浄化槽を設置し汚濁負荷の減少が図られている。また、濁水は上流の土砂流出とも絡むため、森林を含めた流域全体の一体となった取り組みが必要である。

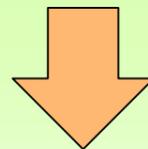
説明項目

①中流部自治体の下水道整備率

部会員からの意見

(杉山) 林業の衰退により放置され過密化した樹林地は、下草が生えず土砂が流出し、水質に影響を与える。従って、林業の状況を把握しないと水質は守れない。

(鈴木常) 治水を目的とした植林の歴史があり、現在では天竜美林を形成している。



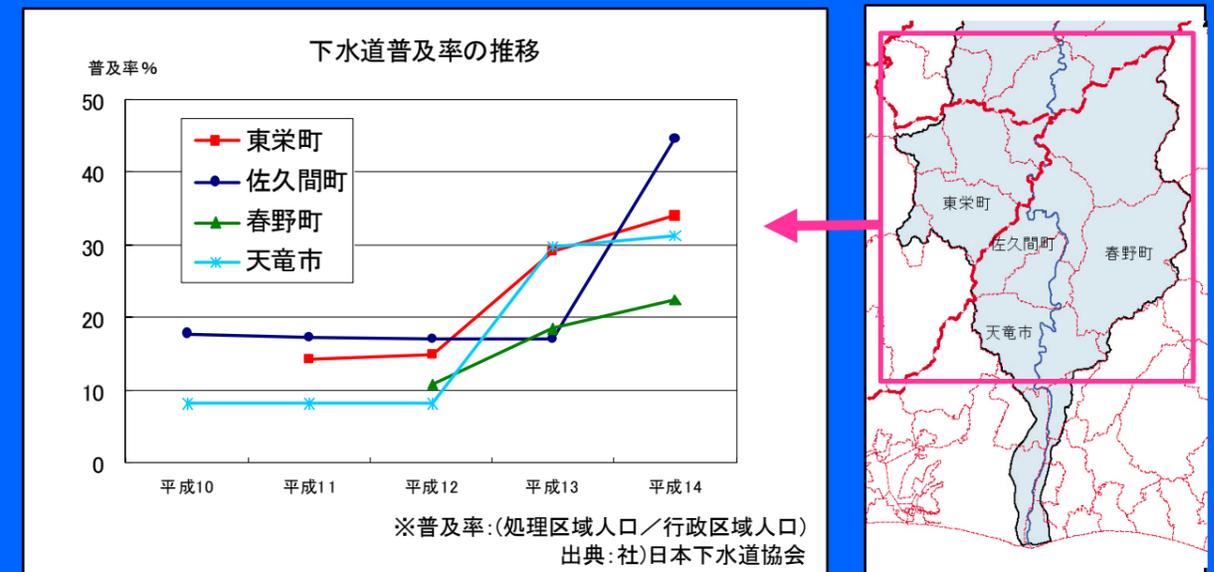
天竜川中下流部の課題

- ・自然環境に関わる水質の保全
- ・水質の保全に向けた流域関係機関の連携
- ・水質の保全に向けた流域関係機関の連携

中下流部課題32. (環境)

① 中流部自治体の下水道普及率

中・下流部の流域面積の多くを占める中流部では、近年、下水道整備が進み、普及率が向上している



中下流部課題33. (環境)

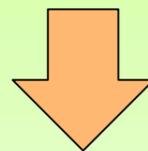
現 状

高水敷などに不法投棄されたゴミは河川管理者などが回収処理を行ってきたが、一向に不法投棄が減らないため、下流部の関係自治体等で構成する「天竜川・不法投棄防止会議」により、沿川の住民参加による天竜川下流域クリーン作戦を行いゴミ回収するとともに、不法投棄防止のPR、不法投棄の監視など地域と連携した対策を行っている。

説明項目

- ①通常巡視
- ②天竜川・不法投棄防止会議

部会員からの意見



天竜川中下流部の課題

- ・ゴミの不法投棄、流木・漂着ゴミ対策
- ・ゴミの不法投棄
- ・ゴミの不法投棄

中下流部課題33. (環境)

① 通常巡視

- (1) 河川管理施設・許可工作物の状況把握
- (2) 不法占用、不法投棄への指示・警告



ゴミの不法投棄



通常巡視の状況

② 天竜川・不法投棄防止会議

天竜川・不法投棄防止会議では、主に以下の次項に関する意見交換・取り組みの具体化を図ることを目的としている

- 天竜川におけるゴミ不法投棄の現状と問題点
- 天竜川に関するゴミの市町村の対応と事例
- 行政・ボランティア等による河川清掃の方法
- 今後の対応・対応策の検討

国土交通省	浜松河川国道事務所
静岡県	浜松土木事務所
	袋井 "
浜松市	環境部
	土木部
浜北市	建設部
磐田市	市民経済部
竜洋町	土木課
豊田町	建設課
豊岡村	建設課

会議の構成



静岡新聞 H15.9.10 朝刊

③ 出水による漂着物対策西部地区調整会議

出水による漂着物対策西部地区調整会議は、大雨などの出水により、県西部地域の河川及び海岸等漂着物に対して、解決する方策を見出すために関係機関により検討を行うことを目的として、平成15年1月に設置された

構成機関 H15.1 設置時点

○協議事項

- (1) 出水による漂着物の処理に係る方策
- (2) 出水による漂着物の発生防止に係る方策
- (3) その他の重要な事項

静岡県土木部 河川砂防総室
国土交通省浜松河川国道事務所
袋井、天竜、浜松の各土木事務所
中遠、北遠、西部の各県行政センター
静岡県農業水産部 水産振興室
中遠、北遠、西部の各農林事務所
中東遠、北遠、西部の各健康福祉センター
磐田市、掛川市、袋井市、大須賀町、浜岡町、
小笠町、菊川町、大東町、森町、浅羽町、福田町
竜洋町、豊田町、豊岡村、天竜市、春野町、
龍山村、佐久間町、水窪町、浜松市、浜北市、
湖西市、舞阪町、新居町、雄踏町、細江町、
引佐町、三ヶ日町